

- ③ 三期目に挑む
- ④ 出発進行
- ⑤ スクラムを組もう
- ⑥ 選挙に行こう
- ⑦ そのだ裕史

昭和52年2月18日生まれの46歳です。
妻（同級生）、長男（大学1年生）、次男（高校2年生）の
4人家族です。

- ・大村市立中央保育所
- ・大村市立竹松小学校
- ・大村市立郡中学校 野球部
- ・長崎県立大村工業高等学校
電子工学科 ラグビー部
- ・大村看護高等専修学校
- ・学校法人福岡保健学院
福岡看護専門学校
- ・大村市立病院（現 市立大村市民病院）
- ・医療法人カメリア 大村共立病院
- ・平成19年 大村市議会議員（1期目）
- ・平成23年 大村市議会議員（2期目）
- ・平成26年 大村市長選挙 落選
- ・平成27年 大村市議会議員（3期目）
- ・平成27年 大村市長（1期目）
- ・令和元年 大村市長（2期目）



重度の身体障がい者だった父と、花のお世話と草むしりが大好きな母のもとに生まれました。高校卒業後は、父のように様々な病気や障がい
に苦しむ方々を、少しでも笑顔にしたいという想いで看護師
になりました。30歳で市議会議員に初当選、38歳で大村市長に
初当選、現在、2期目を務めさせて頂いているそのだ裕史です。

そのだ裕史 事務所

〒856-0831
大村市東本町104-7 まなビル1F
Tel・Fax/0957-52-7300
メール/info@sonoda-hiroshi.jp
携帯/080-2747-5186



そのだ裕史 検索

そのだ裕史後援会討議資料

ONE OMURA



そのだ裕史 マニフェスト2023

これまでの8年間と、これからの4年間をお伝えします。

10.3 決起集会
を開催します！

午後7時30分から
シーハットおおむらさくらホール

10.22 街頭演説
を開催します！

午前9時00分から／大村駅前



ONE OMURA

こんにちは。園田裕史(そのだひろし)です。

大村市長として2期8年が過ぎようとしています。

この間、マニフェストに示した政策について、市議会・市民・企業(団体)の皆さまのご理解ご協力ご支援により、オール大村で実行することができました。

誠に、ありがとうございます。

令和4年(2022年)、

大村市は市制施行80周年を迎え「西九州新幹線の開業」「新大村駅及び大村車両基地駅の開設」「都市計画道路池田～沖田線(サンシャインロード)の開通」「沖田踊・黒丸踊がユネスコ無形文化遺産に登録」。『ボートレース発祥の地』ボートレース大村は開設70周年を迎え、SGレースの最高峰「グランプリ(賞金王決定戦)」を初開催、過去最高売上額の更新、3年連続売上日本一を達成。

様々な節目に新しい大村市がスタートした一年となりました。

現在の大村市、

50年以上人口増加を続ける県内唯一の自治体であり、空港・新幹線・高速IC「高速交通 三種の神器」を兼ね備え、国内でも有数の優位性を誇り、県内で最も高齢化率が低く、若くて元気で活気のある、便利で暮らしやすいまちだとされています。

だからこそ、令和5年(2023年)からのまちづくりは、将来の大村市がどのように進んでいくのか、極めて重要な『はじめの一步』になると考えています。

20年後の令和24年(2042年)、

これからの20年間で、大村市は大きく変わります…市制施行100周年、人口は10万人を超え、九州新幹線西九州ルートが全線フル規格で開通、国道34号大村～諫早間4車線化及び大村拡幅の全線開通、東彼杵道路の開通、総合型リゾート(IR)の誘致と開業、長崎空港はアジアのハブ(拠点)空港へ…そんな未来を、みんなでイメージしていきましょう。

『100年に一度の大きな変革期にある長崎県の新たな歩みは、大村市から始まっていく』

市民も、企業(団体)も、行政も、我々が長崎県をけん引するトップランナーという気概をもって、赤ちゃんからお年寄りまで、みんなが大村市で生まれて、成長して、暮らして、住み続けて、最期を迎えたいと想えるように。

みんなが一つになって、「ONE OMURA」のまちづくりを始めていきましょう。

『大村市にとって良いか!悪いか!』を**1番**(ONE)に考えた公明正大な判断と実行。

ボートレース大村の売上**ナンバー1**(ONE)による持続可能で安定的な行財政運営。

空港・新幹線・高速IC「高速交通 三種の神器」を活かした**オンリー1**(ONE)のまちづくり。

次の4年間に向けた

「そのだ裕史マニフェスト2023 ONE OMURA」を発表します。



まずは、 これまでの8年間で 報告します。



市議会・市民・企業(団体)の皆さんと一緒に、オール大村で様々な政策を実行することができました。

1期目の「マニフェスト2015」に掲げた全27項目中、

子育て支援策として、

「全中学校で給食開始」

「全小・中学校にエアコン設置」

「子ども医療費助成事業の対象を中学校卒業までに拡充、就学前児童の助成を現物給付方式へ変更、インフルエンザワクチン接種費用の助成対象を中学校卒業までに拡充」

福祉保健の充実として、

「特定健診の無償化」

都市インフラ整備として、

「長崎県内初の木場スマートインターチェンジの開通」

「国道34号大村～諫早間4車線化の新規事業化決定」

新たな財政確保策として、

「ボートレース大村のナイターレース参入とSGレースの招致」

など、市民の皆さまへお約束しました項目の約9割を実現することができました。

2期目の「マニフェスト2019」に掲げた12分野36項目中、

企画政策

「国が進めるデジタル化やDX(デジタルトランスフォーメーション)に向けたデジタル田園都市国家構想交付金に大村市提案の『しあわせ循環コミュニティ』事業が県内唯一の採択、年度内実装に着手」

「新編される水陸機動連隊が陸上自衛隊竹松駐屯地に配備決定」

「長崎空港24時間化へ向けた実証運航の開始」

*V・ファーレン長崎クラブハウス拠点構想は実現できませんでしたでしたが、その構想で実現したかった『市民がスポーツをする、観る、支える』ことによる地域活性化実現のために、黒丸町の大村市総合運動公園の整備内容をリニューアルします。

*長崎大学情報データ科学部の誘致は実現できませんでしたが、引き続き、大学や学部、研究施設等、高等教育機関の誘致や連携を進めます。

産業振興

「新工業団地 第2大村ハイテクパークに新たな企業誘致を実現」

「路線バスと乗り合いタクシーを連携・充実させた地域公共交通ネットワークの再構築」

「『大村生まれ・大村育ち長崎和牛』大村産なまこ 琴

俵』をはじめとする大村産品のブランド化と販路拡大」
「『浜んこらあさいち』の定期開催、市内水産物を小・中学校給食へ食材活用、農林水産業に対する各種環境整備」
「『令和2年7月豪雨災害』に対して、農地や施設等の復旧工事を推進」

こども未来

「子ども医療費助成事業の対象を高校生世代まで拡大、市独自で現物給付方式の対象を中学校卒業まで拡大」

「新たな保育士確保策を進め、年度当初の待機児童ゼロを達成」

教 育

「給付型奨学金の対象を、学業に加えスポーツ・文化・芸術・海外留学に拡大し、一芸に秀でる『∞MURA(おおむら)ミライno(の)奨学金』を創設」

「中学校統一型制服の導入」

「小・中学校校舎・体育館の計画的な建て替え・長寿命化等に着手」

「不登校対策として、『大村市小・中学生サポートルームconne(コンネ)』を開設」

福祉保健

「パートナーシップ・ファミリーシップ宣誓制度を導入」
「様々な環境下にある子ども達とその家族を支える『家でも学校でもない第三の居場所としての学童施設』『ヤングケアラー支援の拠点施設』を開設」

市民環境

「『チャレンジデー』の継続開催と市民総参加、『なんでんかんでんチャレンジ40助成金』の積極的活用による市民協働のまちづくり」

「新たな『文化ホール・体育館・武道館』建設に向けた調査事業に着手」

「OMURAキッズプラスをはじめとする『音楽があふれるまちづくり』の振興」

「陸上競技場の全天候型トラック(タータン)改修に着手」

「長崎県動物管理所(アニマルポート長崎)再整備誘致を実現」

都市整備

「都市計画道路池田～沖田線の全線開通」

「市全体の都市計画道路を見直し策定」

「『令和2年7月豪雨災害』に対して、河川や道路等の復旧工事を推進」

新幹線まちづくり

「西九州新幹線の開業」

「新大村駅・大村車両基地駅の開設」

「オール大村で『大村市新幹線開業アクションプラン』を実行」

「新大村駅前市有地開発事業の進行」

上下水道事業

「新庁舎内に上下水道局の移転整備を決定」

「新幹線工事に伴うトンネル湧水を新たな水資源として確保」

「直接投入型ディスポーザー（家庭用の生ごみ処理機）設置を導入」

競艇事業

「過去最高売上額の更新及び3年連続売上日本一を達成」

「収益金を『モーターボート競走事業収益基金』に繰り入れ、持続可能で安定的な行財政運営を推進」

「市民還元及び地域経済対策として、各種クーポン券を配布し、市内店舗や大村製品の振興策を展開」

「県内最大級のスケートボードパークやボルダリングセンター、インクルーシブ遊具等を整備したコミュニティパーク『Gruun（グリーン）おおむら』を開設」

総務

「『大村市防災マップ』の策定及び全戸配布」

「消防ポンプ操法等の訓練場整備に着手」

「郡川流域に浸水深表示板の設置及び流域治水対策に着手」

財政

「新庁舎整備は建設地を決定し、設計業務に着手」

「環境センターをはじめ老朽化した各種公共施設の再整備に着手」

「新たな市債（市の借金）発行の抑制と減額、基金（市の貯金）残高を増額」

オール大村で進めてきた8年間の政策実行は、まちの雰囲気大きく変え、様々な数値の変化に裏打ちされた実績につながっています。

これからも大村市の先頭に立って、みんなでスクラムを組んで、大村市の可能性を信じて、広げて、どんどんカタチにしていきたいです。





そして、これからの4年 間を発表します。



企画政策

1 長崎空港のコンセッション(公共施設等運営)方式による空港民営化並びに運用時間の24時間化、総合型リゾート(IR)の誘致を促進します。

国内外の定期路線をはじめ国際チャーター便の増設、24時間化に向けた運用時間の段階的拡大、総合型リゾート(IR)誘致と併行したコンセッション(公共施設等運営)方式の実現により、アジアのハブ(拠点)空港として、ビジネスや観光、物流、交流・関係人口の増大を進めます。

2 大学や学部、研究施設等、高等教育機関の誘致を進めます。

産官学で組織する「大村市大学誘致検討協議会」を設立し、大村市ならではの地域特性を活かした特徴と新規性を併せ持った大学及び学部誘致を進めることにより、教育力向上、次世代産業の人材育成、若者の市外流出抑制と市内・近隣市町への就業、新たな企業誘致や地場企業の振興、地域経済の活性化と循環など、更なる人口増加を進めます。

3 市民の『誰もが、いつでも、どこでも』デジタルの恩恵を享受できる便利で快適な環境をつくるためデジタル田園都市国家構想交付金事業「しあわせ循環コミュニティ」を進めます。

デジタルのチカラを活用した地域コミュニティの再構築、子育て支援の更なる充実、地域通貨の循環によるボランティアや市民協働、地域経済の活性化と循環を進めます。



産業振興

1 新工業団地「第2大村ハイテクパーク」の企業誘致と全区画完売を進めます。

「儲かる農林水産業」を進めます。

大村寿司やゆでピー、カレーライス、お好み焼きなどのソウルフード、みかんや人参、イチゴなどの農産物、長崎和牛や豚、鳥(卵)などの畜産物、ナマコやウニ、シャコなどの海産物、色んな大村産品で食卓を囲むプロモーションとブランド化、販路拡大を進めます。

大村バスターミナルビルの再開発事業を進めます。

バスターミナル・ミライon・コレモおおむら・中央商店街(アーケード)が連動・連結・連携した中心市街地「4核1モール」により、更なる人流増加、経済活性化、まちなか居住を進めます。

2 「フラワーシティ大村市」を進めます。

一年を通して年がら年中花が咲き誇るまちとして、大村公園をはじめ市内公園を花いっぱいにします。

市民・企業(団体)・行政、一人ひとりが公園や歩道、会社、自宅など、ありとあらゆる場所で、花いっぱいのまちづくりを進めます。

3 地域公共交通ネットワークを充実させます。

路線バスの利便性向上と乗合タクシー等による公共交通ネットワークの更なる充実と、運転免許証返納者や交通空白地、高齢者や障がいのある方々の移動手段確保について、バス・タクシーチケットの配布等も含めた様々な対策を進めます。



そして、これからの4年 間を発表します。



こども未来

1 子ども医療費助成の現物給付方式対象を高校生世代まで拡大します。

給食費や保育料の無償化を促進します。

本来、給食や保育料の無償化については、自治体ごとに差があるべきものでなく、国や県で広域に対応すべき課題と考えます。

国や県に市長会等を通して、『広域で対応すべき』と要望を上げていきます。

2 年間を通して待機児童を解消します。

潜在保育士や子育て支援員の採用、柔軟な働き方や待遇改善など、保育士の雇用拡大を進めます。

施設整備のあり方、保育士確保策、保育料減免策など、多様な保育や預かり方を進めます。

3 障がい児一人ひとりに対する保育・教育体制を充実させます。

発達障害や医療的ケア等の障がい児への対応について、早期発見・早期支援、保育士等の配置基準や補助基準額の見直し、未就学児から義務教育期間を通した支援及び連携策を進めます。

命を生み、育て、守るための子育て支援策を進めます。

自殺を個人の問題ではなく社会全体の問題と捉えて、市民一人ひとりや家族、地域、企業(団体)等、幅広い関係機関と連携した対策を進めます。

子どもの事故防止に対する予防啓発とハード・ソフトの環境整備、「子ども安全管理士」の養成、全小学校で「子ども救命士」の育成を進めます。



教育

1 「ミライへつなぐ学校教育プロジェクト」を進めます。

子どもと地域の未来をはぐくみ、ささえ、つなぐ『教育のまち大村』を目指し、『学校規模の適正化』『中学校統一型制服の導入』『自信をもたせる学習評価の実施』の3つのプロジェクトを柱として進めます。

また、年々増加している配慮を要する児童・生徒への支援を充実させるため、一人ひとりに寄り添ったきめ細かな支援と安心して学校生活を送れるように未就学児から義務教育課程終了までが連携した教育環境づくりを進めます。

2 小・中学校の校舎及び体育館等の長寿命化計画を進めます。

老朽化が進んでいる小・中学校の校舎及び体育館について、「大村市学校施設長寿命化計画」に基づき、建て替え・長寿命化改良・大規模改造・大規模改修を進めます。また、トイレや運動場等についても、優先順位をつけて改修・改良を進めます。

3 新たな文化ホール・体育館・武道館を建設します。

音楽があふれるまちづくり、スポーツのチカラで地域を元気に、武士道精神で大村愛を高めましょう。

時期、場所、手法、規模、財源等を含めて、今後も市民や各種関係団体のお声を聴きながら、文化ホールとしての機能と、体育館やその他の多目的利用・複合化等も含めて検討します。



そして、これからの4年 間を発表します。



福祉保健

1 『人生の最期も大村市で迎いたい』を進めます。

住み慣れた地域で自分らしく人生の最期を迎えられるネットワーク体制と地域包括ケアシステムの構築、ACP（アドバンス・ケア・プランニング）の充実により、家族や友人、地域と豊かに過ごすため、医療・福祉・介護・地域・行政が一体となった『人生の最期も大村市で迎いたい』を進めます。

2 ワークダイバーシティ（多様性のある働き方）を進めます。

障がい者や難病者、引きこもり、刑余者等、働きづらさを感じている一人ひとりの特性に応じて、工賃アップ、超短時間雇用から一般就労まで、企業や関係機関がネットワーク体制を構築した幅広い就労支援策を進めます。多様な働き方と雇用機会を拡大することにより、個々の幸福度を高め、潜在的労働力としての人材活用を活性化します。

3 インクルージョン（包摂性のある社会）を進めます。

パートナーシップ・ファミリーシップ宣誓制度を開始します。

インクルーシブ教育・福祉の充実、LGBTQ+教育など、多様性の理解と共生社会の充実を進めます。

手話の発展や普及、手話による教育や様々なコミュニケーションツールの整備など、『手話は言語である』を進めます。



市民環境

1 『スポーツをする、観る、支える』スポーツのチカラで地域を元気にします。

大村市陸上競技場を全天候型トラック（タータン）に改修し、公認陸上競技場の認定取得を進めます。

大村市総合運動公園（多目的広場）にナイター照明と全面人工芝整備を進めます。

野球やソフトボール、サッカー、ラグビー、グラウンドゴルフ、ホッケーなどなど、超多目的なスポーツ広場へリニューアルします。

テニスコートは全16面に整備計画を見直し、更なる拡充を進めます。

2 市民・企業（団体）・行政が一体となった「オール大村」で、ごみの減量化・資源の循環等、2050年二酸化炭素排出実質ゼロ「ゼロカーボンシティ大村」を進めます。

環境センター（ごみ処理施設）、し尿等受入施設（し尿処理施設）の再整備を進めます。

大村湾の水質浄化を進めます。

3 保護犬・猫の殺処分ゼロと里親制度の充実を進めます。

再整備の建設地が大村市に決定した長崎県動物愛護管理センター（仮称）について、施設の拡大や更なる機能向上に向け、市民・県民が気軽に立ち寄り、触れ合うことができる施設整備を促進します。

また、保護されている犬や猫の里親譲渡会の普及啓発強化、アニマルセラピーを目的とした高齢者・障がい者施設との里親マッチング事業を進めます。



そして、これからの4年 間を発表します。



都市整備

1 「国道34号大村～諫早間4車線化」、「国道34号大村拡幅」、「東彼杵道路」の整備を促進します。

慢性的な交通渋滞が発生している「桜馬場交差点」、「池田2丁目交差点」及び「空港北口交差点(松原本町)」について、国・県等の関係機関とともに、引き続き、交通渋滞解消を進めます。

長崎県の構想路線である、長崎空港・新大村駅・大村ICを結ぶ約5kmの「長崎空港連絡道路」について、国・県・市が連携して課題の整理や整備手法の検討を進めます。

「都市計画道路(仮称)鬼橋～坂口線」の道路整備及び周辺の土地利用により、新たな商業施設や企業誘致等、新大村駅周辺の開発事業を進めます。

2 野岳湖公園に、子どもから大人まで楽しめる自然を活かしたアドベンチャー施設を新たに誘致・整備します。

その他の都市公園についても、多目的利用とリニューアル整備を進めます。

3 防災・減災・国土強靱化による道路及び河川改修と整備を進めます。

近年、激甚化・頻発化する自然災害から市民の生命・身体・財産を守るため、引き続き、各地区やPTAからの要望等に対して、道路整備や河川改修、通学路の安全対策を進めます。

今後想定される水害リスクに備え、関係者・団体と協働し、流域全体で水害を軽減させる治水対策を進めます。

新幹線まちづくり

1 九州新幹線西九州ルート of 全線フル規格化の早期実現を目指します。

新たに官民で組織する「大村市新幹線フル規格促進協議会」を設立し、九州新幹線西九州ルート of 全線フル規格化を促進します。

全線フル規格化の整備は、定時性・速達性に優れた交通手段であり、新大阪間への直通運行も可能となり、中国・関西圏との交流・関係人口を拡大していきます。更に、新大阪～東京間リニア新幹線の開業に併せ、将来的に九州新幹線と関西・関東圏が連結することで、空港と新幹線を活かしたインバウンド戦略は高まり、アジアの玄関口として長崎空港及び大村市の位置付けは大きく変わります。

2 新大村駅前(東口)市有地開発事業を進めます。

令和7年春までの全区画完成に向けて、民間開発を促進するとともに、商業施設やマンションが一体となった『くつろぎと賑わいのある』公園整備を進めます。

3 「大村市新幹線開業アクションプラン」を進めます。

大村市を中心に『プロモーション』『観光商品づくり』『移住・定住促進』を図り、県内外周辺エリアと連携した地域経済の活性化と循環を生み出す『素通りからストーリーのあるまち・大村』を進めます。



そして、これからの4年 間を発表します。



上下水道事業

1 新たな水資源確保を進めます。

近年の少雨傾向を受け、健康で快適な生活環境を確保するため、持続可能で安定的な農業用水の確保、更なる企業誘致に向けた工業用水の確保等、新たな水資源確保を進めます。

2 直接投入型ディスポーザー(家庭用生ごみ処理機)の設置と普及を進めます。

ディスポーザーとは、生ごみを粉砕し、排水と一緒に排水管に投入する装置のことです。ディスポーザー設置を可能にすることにより、快適で利便性の高い都市環境の整備、生ごみの減量化により全体のごみ排出量の軽減と回収・処分費用の圧縮、バイオマス資源としての有効利用などが期待できます。

3 安全・安心な水の安定供給と水処理施設の高度化を進めます。

水道事業については、将来的な水需要や老朽化した設備・管路等の耐震化や更新、事業経営の改善、技術継承等の課題に取り組み、引き続き、安全・安心な水の安定供給を進めます。

下水道事業については、大村湾の水質浄化のため、水処理施設の高度化を進めるとともに、事業効率化のため萱瀬下地区の農業集落排水を公共下水道に統合します。



モーターボート競走事業

1 ボートレース大村の連続売上日本一を目指します。

今後も、ミッドナイトレースの継続、全国発売競走(SG・プレミアムG1レース)の開催、更に、4年に一度はSGグランプリ(賞金王決定戦)の招致を目指し、「発祥の地」から新しいボートレース場を展開していきます。場外発売所については、令和6年3月に諫早市へ新規開設することにより、全国最多延べ16か所目の設置を進めるとともに、今後も更なる拡大路線を図ります。

2 ボートレース大村「Gruunおおむら」エリアを拡大し、新たにドッグラン、サップやカヌーを楽しめる親水エリア、グランピングができるキャンプ場などなど、更なるリニューアル整備を進めます。

3 ボートレース大村からはじまる「ソーシャルイノベーション」を進めます。

社会貢献事業として、幅広い世代に向けたイベント開催、障がい者の活躍と社会参加支援、パラスポーツの普及、子どもの貧困やヤングケアラー対策等、日本財団や各種関係団体と連携した「ソーシャルイノベーション」を進めます。



そして、これからの4年 間を発表します。



総務

1 新庁舎整備を進めます。

市民の多様化するニーズに応え、質の高い行政サービスを提供するために、ワンストップ窓口対応、利便性の高い申請手続き、高い耐震性と防災システム、優れた環境性能、ユニバーサルデザイン等、最新技術を活用したスマート庁舎の整備を進めます。

2 安全・安心で災害に強い街づくりを進めます。

防災ラジオの配布率アップ、自主防災組織率アップ、総合防災訓練の毎年開催、『平時にできないことは、有事にもできない』という意識を市民全体に広げ、消防団や消防署、自衛隊等の関係機関と連携し、災害に強い、安全・安心なまちづくりを進めます。

3 市役所内の内部統制機能の充実と職場環境整備を進めます。

住民の福祉増進に努め、最少の経費で最大の効果を発揮できるよう、事務の適正化と確保を進めます。

適正な行政サービスを提供するため、内部統制機能を組織マネジメントの仕組みとして構築、職員の意識改革、事務処理ミス防止、危機管理意識の向上、コンプライアンスの徹底を図り、市民から信頼される市役所を目指します。

職員のメンタルヘルスや健康診査、産休・育休の取得促進等、みんなが仲良く、笑顔で、元気に『働きたい』と思える制度や職場環境整備を進めます。



財政

1 持続可能で安定的な行財政運営を進めます。

「補助金等の在り方に関するガイドライン」「歳入確保対策基本方針」「財政運営基本方針」に基づき、更なる事務事業の見直し、行財政健全化の推進、市民サービスの充実、民間活力の導入も検討します。

遊休市有地の積極的な売却と整理、資産活用を進めます。

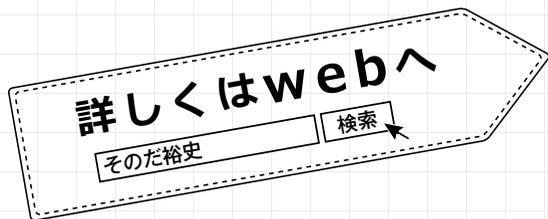
2 新たな財源確保を進めます。

「ふるさと納税」について、市外・県外の方々への情報発信を強化するとともに、NFT(非代替性トークン)をはじめ新たな返礼品の開発等、一連の業務を包括的に民間委託し、寄付額を倍増させます。

また、更なる人口及び企業数の増加、公平公正な収納対策による市税収入確保、「企業版ふるさと納税」を活用した小・中学校及びOMURAキッズプラスの楽器購入、スポーツ施設の備品・設備の更新、施設の改修等を進めます。

3 公共施設再整備を計画的に進めます。

今後の人口動態や街づくりの視点から「アセットマネジメント事業計画」「公共施設等総合管理計画」に基づき、老朽化した公共施設等の再整備(廃止・新築・改修)と再配置を進め、機能的で機動的な市民サービスの拠点整備を進めます。



ホームページ



ブログ



フェイスブック



インスタグラム



YOUTUBE



そうだ、選挙に行こう。

今から17年前、私は、ハンドマイクを片手に一人で街頭に立ち、こう叫びました。

『みんなが自分のまちに関心をもつ。参加する。選挙に行きたくなる。そんな政治を私はやりたい。そうだ、選挙に行こう。』

これこそが、私の政治活動の原点です。

あなたは、子どもから

『ねえ、なんで選挙に行かないの?』

と問われたら、どう答えますか?

私達が、世の中を傍観し悲観的な言葉を発すれば、そんな姿を見た子どもは、大人の態度を真似するかもしれません。

あなたから子どもへ。そして、また次の世代へ。大村の未来をつなぎ、伝えて欲しいのです。

まちを創るのは、人と政策です。

その政策を提案するのは政治家ですが、選ぶのはあなたです。

未来の大村を選び、みんなで創っていくために。そうだ、選挙に行こう。